

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	政治学研究科 政治学専攻 研修生	2026年度 秋季
専門科目		

《解答又は解答例》

デモクラシーと権威主義体制を対比的に捉えるのではなく、デモクラシーから権威主義体制が生まれる過程、あるいは、いったん受け入れたデモクラシーを否定するかたちで権威主義体制が生まれる理由を考察していれば、合格基準を満たすことができる。

論述の仕方としては、

①デモクラシーと権威主義体制との違いを明らかにする。

そのうえで、

たとえば、

②-1 レーガン政権下のアメリカ合衆国を権威主義体制として捉えた場合、どのような特徴をもっているのかを論じる。

あるいは、

②-2 ポーランドやハンガリーの現体制は、なぜ、西欧的なリベラルデモクラシーを導入しながら、その制度化に反発する動きが、権威主義体制をつくりあげていく理由を考察する。

以上のような観点からの論述においては、「ポピュリズム」と権威主義体制との関係に言及することが必要な要件となる。

《出題の意図》

民意を反映する制度として捉えられているデモクラシーは、同時に自由や寛容を広く認める体制でもあるとみなされてきた（リベラルデモクラシー）が、トランプ政権に見られるように、民意によって選ばれた指導者のもとで、自由を制限・抑圧する体制（権威主義体制）が生まれることもある。

また、ハンガリーやポーランドのように、西欧的なリベラルデモクラシーへの反発が、導入された西欧的な選挙制度や政党制のなかから権威主義体制を成立させることもある。

このように、デモクラシーと権威主義体制とは対概念として捉えられがちであるが、デモクラシーには、それに内在する、あるいは、デモクラシーから生まれる「反自由」「オポジションへの敵対的な態度」がある。

かならずしも対概念としては捉えられないデモクラシーと権威主義との関係についての考察を論述してもらうことが、出題の意図である。